

2008年度 第86回 関西学生サッカーリーグ（後期・第8節）

11月8日（土） 大阪長居第2陸上競技場

第1試合 大院大 vs 京産大

同大戦で、懸案の得点力不足は解消のメドが立ったものの、5失点を喫し守備の整備という課題を残した大院大。藤原義三監督は、「ビデオで守備の確認を行い、その修正に時間をかけた。」と話したものの、不安が付きまとっているのも本音として漏らしていた。残留争いの渦中で勝ち点3が必要とされるため、心配は尽きない中での試合だったが、選手が奮闘する。

前半14分に、混戦からFW⑨岡村和哉がシュート。ライン上で京産大の選手がクリアしたかに見えたが、副審の旗が上がる。泥臭くも貴重な先制点をもぎ取る。前半はそのままリズムを掴んだ大院大だったが、追加点は奪えず。そして後半、京産大の猛攻に晒される。実に45分で16本のシュートを浴びる。京産大の左右からのアーリークロスが正確で、被決定機の連続。しかし、「流れが来なかった。これもサッカー。」と京産大の古井裕之監督が語ったようにゴールは決まらず。

大院大は、前節2得点の岡村がまたもチームを救う。後半12分、CKのこぼれをエリア外で拾うと、相手DFに寄せられながらも、チップキックでふわりとしたシュートをゴール角に届ける。岡村曰く「練習中に遊びでやっていた蹴り方が決まった。」というセンス溢れるシュートで追加点。守備でも体を張って無失点でしのいだ大院大が貴重な勝ち点3を奪った。

（文：サッカーライター ハヤシ ヒロヒサ）

大院大 2 $\left\{ \begin{matrix} 1-0 \\ 1-0 \end{matrix} \right\}$ 0 京産大

得点（アシスト）者

14分 9 岡村

57分 9 岡村

第2試合 立命大 vs 大教大

立命大 0 $\left\{ \begin{matrix} 0-0 \\ 0-1 \end{matrix} \right\}$ 1 大教大

得点（アシスト）者

52分 5 大久保

勝ち点17の大教大と同16の立命大の降格圏脱出争い、直接対決。

大教大の入口豊監督と試合前にこれまでの戦いを振り返り、「良くも悪くも地味な試合が多い。でも堅実さは変わらないので大崩れも大爆発も無い。」という感想で意見が一致していたが、この試合はまさにその真骨頂。

立命大が度重なるサイドアタックと、その流れで得たCKで大教大に襲い掛かった。しかし我慢強く弾き返した大教大は、数少ないチャンスをモノにする。後半7分に、この試合わずか1本しかなかったCKからDF⑤大久保悟がゴールを決める。立命大には、「勢いを得る何かが必要。」（米田隆監督）だったが、前半に得たPKを失敗。その何かを手に入れ損なった。それでもテクニクで圧倒し、主導権を握った立命大だったが、決定機はほぼ皆無。アタッキングサードに入った途端にトーンダウンする攻撃は、大教大にとって脅威にはならなかった。

試合終了のホイッスルの後、明暗の差があまりにもクッキリと表れた選手の顔。勝ち点という数字よりも精神的に影響の大きい結果となったのは間違いない。

（文：サッカーライター ハヤシ ヒロヒサ）

11月9日（日） 高槻市立萩谷総合公園サッカー場

第1試合 姫獨大 vs 近畿大

後期末だ勝利がない姫獨大は11位に順位を落とした。最下位の近畿大は、攻撃面では申し分ないものの守備面で不安を残す。関西学生のトップリーグである1部に残るために、両者ともに絶対に勝たなければならない一戦だった。

姫獨大は「今日はみんな当たり前にいけていた」とGK①家木大輔主将の言葉にもあるように、前線から体を張ったプレス、守備陣も2人翔けで止めに行くなど、この試合に懸ける執念を見せる。逆に、近畿大はMF⑦枝本雄一郎を中心とし中盤から攻撃を組み立て、慌てることなく前線へとパスを供給した。しかし近畿大は前半シュート2本。綺麗につなごうとするあまり強引にシュートが打てない。0-0で迎えた後半、両者交代カードを切り、FW 45 河野大星（姫獨大）、MF⑭北井佑季（近畿大）と1回生のキーマンを投入。そして膠着状態の試合に終止符を打ったのが北井だった。後半33分、FW 13 小笠原宏樹がゴール前にフリーで待っていた北井にラストパスを送り、そのままゴールへ押し込んだ。それまで決死の守備を見せていた姫獨大も一瞬の隙を決められてしまった。試合後、「今まで自分たちがやってきたことを信じていました。『ここでサッカーを変えてしまったらいけない』と思っていたので、それが間違いではなかったことを証明できてよかったです。」と救世主となった北井は笑顔で答えた。一貫したパスサッカーを展開した近畿大が、価値ある勝利を掴んだ。

（文：フリーライター 久住 真穂）

姫獨大 0 $\left\{ \begin{matrix} 0-0 \\ 0-1 \end{matrix} \right\}$ 1 近畿大

得点（アシスト）者

78分 14 北井

（13 小笠原）

第2試合 びわこ大 vs 桃山大

びわこ大 0 $\left\{ \begin{matrix} 0-0 \\ 0-1 \end{matrix} \right\}$ 1 桃山大

得点（アシスト）者

80分 4 宮内

（3 北江・6 岡田）

首位を追うびわこ大。優勝を手にするためにもここで落とすわけにはいかない。方やここで負けると残留争いも見えてくる桃山大。どちらも負けられない戦いは、ワンチャンスをものにした桃山大が制した。

完全な守備の勝利。そう言いたくなるような試合だった。びわこ大は桃山大の激しいプレスに合い、中盤でパスを受けても最終ラインまでボールを戻さなければならない展開が試合終了まで続いた。前線に張ったFW⑬平野甲斐が前半から孤軍奮闘するも、桃山大の堅い守備陣がラストパスを許さない。2トップは機能せず、攻撃のチャンスは皆無に等しい。びわこ大は早い時間帯から積極的に交代カードを2枚きるが、それでも守備に徹していた桃山大だが、残り10分、セットプレーのチャンスを逃さなかった。MF⑥岡田翔太郎がゴール前にあげたボールをDF③北江進吾がヘディング。ポストに跳ね返ったところをDF④宮内豪がさらに頭で流し込んだ。「セットプレーを狙っていました。点が決まったときは嬉しかったです。」と宮内。桃山大は狙い通りのプランで、びわこ大に6月15日以来の黒星をつけた。

（文：フリーライター 久住 真穂）

11月9日（日）神戸総合運動公園ユニバー記念競技場

第1試合 関西大 vs 関学大

勝ち点差1。関西の雄がインカレの切符をかけて激突。そして毎年、総合関関戦という体育会での大会も行われるライバル校の両者。今期の対戦成績は関西大が2戦全勝（リーグ・総合関関戦）。3つのインカレ出場権を懸けた伝統の一戦を制したのはー。

前半から試合を支配していたのは関西大。「久々にキャプテンらしいプレーだった」と関西大・川端監督が褒めたようにMF 21 大屋翼が攻守に渡り効いていた。関学大は攻撃陣がマークされ、全員が下がり自陣で守る場面も少なくなかった。「積極的にシュートを打ってワンチャンスをもにしよう」とハーフタイムの川端監督からの指示通り、チャンスをものにしたのは現在得点ランキングトップのFW⑩金園英学。右サイドDF③宇佐美宏和からのパスに反応し、関学大DFの裏へ抜けシュートを放つとボールはそのまま一直線にゴールへ吸い込まれた。関学大はFW⑪桑原透記が孤立していたが、MF⑦原田雅史を投入したことで中盤から前線へパスを送れるようになった。この試合、負けるとインカレ出場が苦しくなる関学大は試合終了間際、怒涛の猛攻をかけるが前節の立命大戦のようにロスタイムの奇跡は起こらなかった。「収穫は0で押さえたこと」（川端監督）という関西大は最後まで1点を守りきり、3点を死守した。

前節の関西大学「集中応援日」に引き続き、関学大側がエスコートキッズや関学大・近隣の小学生たちを招待したこの試合。家族連れのお客さんも目立ち、両チームの白熱した応援もあり、試合も一段と引き締まったものであったように感じた戦いであった。

（文：フリーライター 久住 真穂）

関西大 1 $\begin{Bmatrix} 0-0 \\ 1-0 \end{Bmatrix}$ 0 関学大

得点（アシスト）者

57分 19 金園（3 宇佐美）

第2試合 阪南大 vs 同大

阪南大 4 $\begin{Bmatrix} 1-0 \\ 3-0 \end{Bmatrix}$ 0 同大

得点（アシスト）者

25分 45 宮脇（11 木原）

63分 14 東

66分 7 小寺（26 長瀬）

68分 13 西田（45 宮脇・7 小寺）

関西第1号となるインカレの切符を掴んだのは、阪南大。第1試合で4位の関学大が負けたため、3試合を残して早々と3年ぶりの出場権を獲得した。

「完敗です。これが今の勝ち点差なんだと思います。」試合後、同大主将・FW⑨松田直樹はこうコメントを残した。ここまで3連勝と好調だった同大だが、前半25分に左サイドを突破されFW 45 宮脇達樹のヘディングゴールで1失点。MF⑩楠神順平のドリブル、DF②林圭佑の縦へのあがりが見えたものの、後半は圧倒的な阪南大の攻撃に息を静めてしまった。阪南大は後半MF⑦小寺優輝が入ってから攻撃陣が機能し、MF⑭東浩史のゴールを皮切りに5分間で3得点。夏場の怪我から長く不調が続いていたエースFW⑬西田剛は、「気持ちで決めました。全てに捧げるゴールです！」と実にリーグ戦8試合ぶりのゴールを決め、ようやくストライカーとしての本領を発揮。同大のDF陣は完全に崩され、2トップの松田コンビも鉄壁の阪南大守備陣に仕事をさせてもらえず4-0で試合終了。ここ4試合で18得点無失点の阪南大が全国への道を切り開いた。

（文：フリーライター 久住 真穂）

～第8節の風景～

インカレ出場権獲得の阪南大！！◆後期から大活躍。先制点を奪取！ 宮脇 達樹（4年）◆



11月9日（日）ユニバー〈阪南大ー同大〉

■ 撮影：UNN関西学生報道連盟 ■